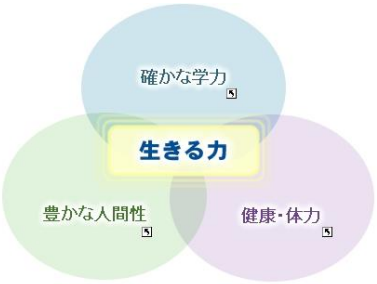
和邇小学校　校内研究

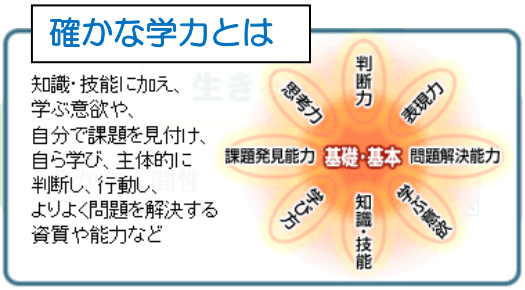
〇今年度のテーマ

研究主題　「未来を自分の力で切り拓く『確かな学力』の育成」

～読み解く力の視点から書く力をのばす～

和邇小学校では、これまでの３年間「言語力を高め、自ら学び考える子の育成」という主題のもと研究を積み重ねてきた。めあてとふりかえりや言語活動、学びの必然性と「言語力」の向上を図り、一定の成果を上げることができたと考える。しかし昨年度末、全職員で学校の SWOT 分析に取り組んだところ、本校にはさまざまな強みや課題があることが見えてきた。特に本校児童は自分の思いや考えを記述することが苦手であり、基礎学力の定着が図れていない傾向にある。また、子どもたちの普段の生活の様子からは、自らの力で考えることが弱く、自分で判断して行動することや自分の思いを表現することが苦手な児童が多いように感じる。子どもたちの「学力不振」に危機感を感じている職員が多いことも見えてきた。では、私たちが考える『学力』とは、どのような力なのだろうか。文部科学省は、子どもたちに求められる学力としての『確かな学力』とは、知識、技能はもちろんのこと学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までも含めたものであるとしている。





生きる力を知の側面からとらえたものが『確かな学力』である。しかし、多くの人が『学力』とは、テストによって点数をつけられる尺度や、読み書き計算などの基礎的な学習の力だけを想像するのではないか。基礎的な学習の力をもとに、未来をたくましく生きる力を身に付けることが、学校教育に求められているのではないだろうか。和邇小では、子どもたちに身に付けさせたい『確かな学力』はどんな力なのかを、全職員でしっかり共通理解し、学校教育の中でどのように子どもたちに育んでいくかを研究していきたい。

今年度は、『確かな学力』を育む１年目として、まず「書く力」に焦点をあてて研究を進める。「書く力」は各教科においても重要な基礎であり、確実に身に付けさせたい力である。また、書く力をつけるためには必要な情報を確かに取り出したり、情報を比較し関連付けて整理したり自分なりに解決し知識を再構築していく「読み解く力」が必要である。そのような読み解く力の視点をもって研究に取り組むことで、未来を自分の力で切り拓く力を身につけた子どもたちを育成していく。

研究仮説

・各教科において、読み解く力の視点を持ち、「書く活動」を中心においた言語活動を工夫すれば、子どもたちの学習意欲の向上や基礎学力の定着が進み、『確かな学力』育成されるであろう。